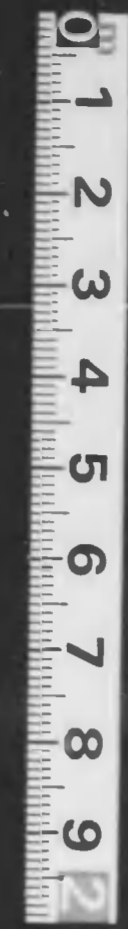


寫眞週報

編輯部情報閣内
ンセ十・號八十第・日五十月六

昭和十三年五月十日 第三千八百八十號 (東京) 日本新聞社 (東京) 發行 第十八



貯蓄報國號



貯蓄報國

の金箱種々箱

Wo bleibt dein Spargeld?

貯金は銀行に集まると農工商業者らに信用を貸し出される

貯金は
けずらうみ

貯金は身のため
国のため

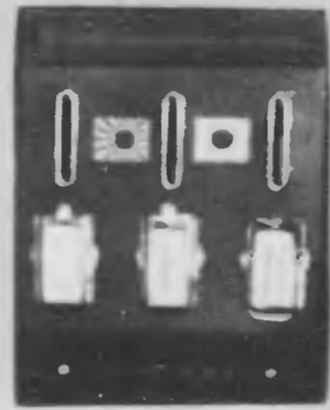
失業者を減らす

収入は職元か貯金の余剰を興へる

生産力を拡充する

仕事は
収入をうみ

(一タスガたし出り貼に頭街めたの勸業蓄貯が府政國逸獨は國上) 味意の「は金貯の君諸」は超標の請逸獨るあでのもたし譯版を



本日



本日

富國徴兵

子供の保険
理想の貯蓄



郎一嘉津根 長社

谷比日京東 社本



本日



ア



イギリス



ドイツ

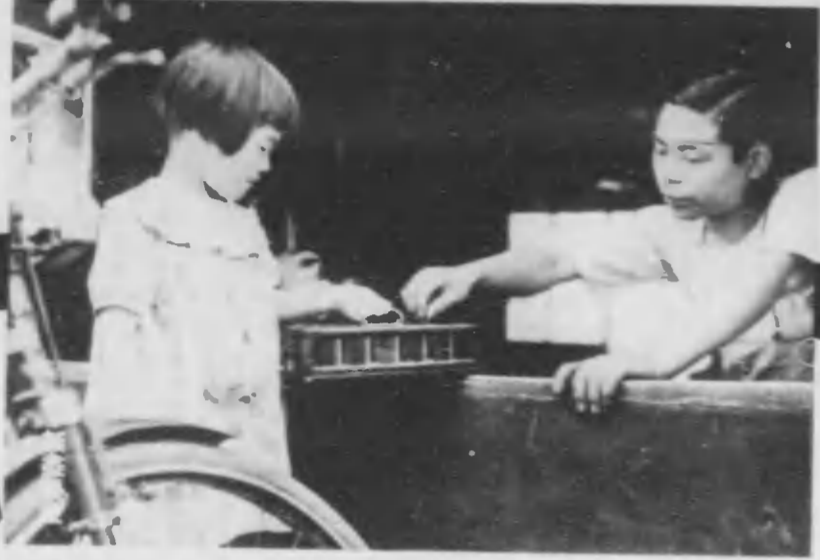


フランス

國民貯蓄獎勵局
第一課



保險貯蓄



信用組合貯蓄



簡易貯蓄



手帳貯蓄



銀行貯蓄

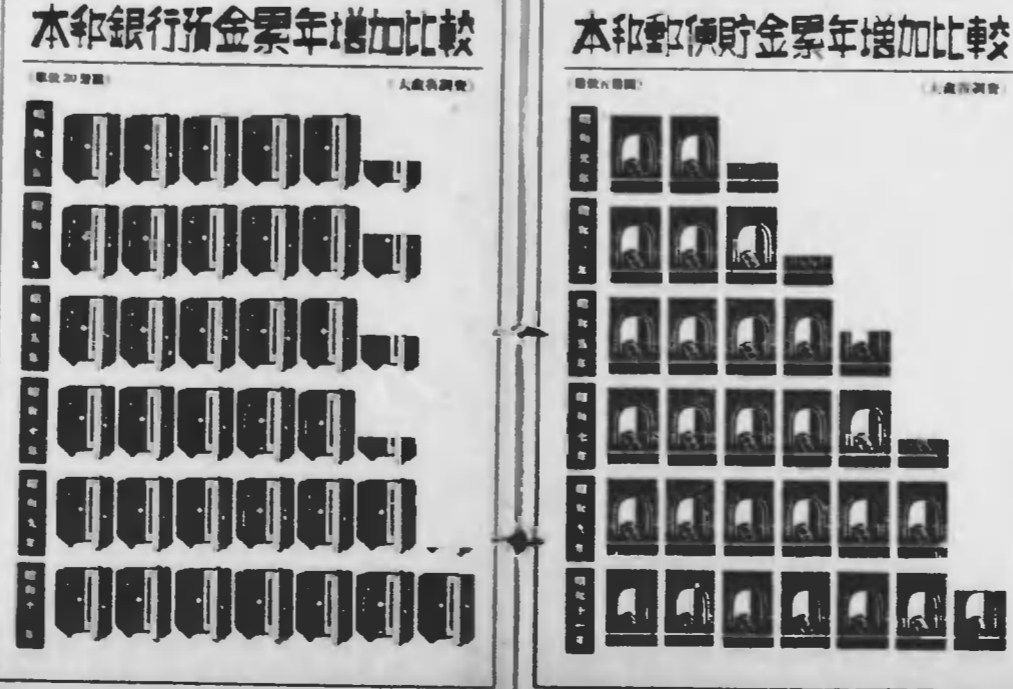
貯蓄増加目標十八億圓
國債消費約十五億圓 產生擴充資力約十三億圓

貯蓄戦に参加せよ

大蔵省

忠勇なる皇軍將士は、戦多し戦多しを繰り返して戦を續けてゐる。道はすでに拓かれたが、わが國家の大使命を達成するまでには前線にすぎず多額の、國民は不逞の決意を固くし、長期戦に備へねばならぬ。
若し、今、前線に戦つてゐる皇軍に對し、兵隊服その他の軍需品が十分補給出来ぬとしたらば、又、戦後の國民生活が、物價暴騰によつて立ちゆかなくなつたらば、日本はどうなるだらうか？
政府が、驚をからして國民に呼びかけてゐる「貯蓄戦」の聲をうっかり聞き流してゐたら、これらの不安が、形となつて、現れてくるのだ。それをふせぐには、今日より今から、國民一齊に、貯蓄の法をとり、節約の法を習つて「貯蓄戦」に参加せよ。

何故貯蓄しなければならぬか？
第七十三歳會で豫算を算定するに、戦費、一般貯蓄を合せるると、約八十億となり、公債の發行額は約五十億と算定されてゐる。この八十億の金は、その大部分は國民の手に落ちるのである。そして、何等の豫算も無い場合は、次のような過程を経て、悪い結果を招くことになるのだ。
一、例へば、政府が軍需品を買上げて、その代金を軍需品製造會社へ支払ふ。すると、會社を中心に、社員、職工の所得が増え、會社へ原料、材料を供給する商人の利益も多くなる。政府は軍需品工場に暴利を貪らせぬやうに監視してはゐるが、平時に比して注文が増加するから、製造者の所得が増すのは當然である。
一、これらの人々が所得が増えるままに、欲しい物を買ひ、生活程度を高めてゆくとしたら、一般的に物價の消費が非常に増加する結果、物價が上がる。
一、需要に對して供給が伴はず、何の心配もないが、競争の爲に多量の物資が消費され、國內の生産力が殆んどそこに向けられてゐる戦時體制で、國民がほとんど消費を増加すれば、貯蓄の絶えを来たし、物價が暴騰するのは當然である。
一、物價の暴騰は、國內の國民が困るだけでなく、外國から見ても物が買ひやすくなり、それが輸出の増進が阻まれて、外國から買入る力が減少するので、今日必要の物資が得られなくなつて來る。
一、その結果、國民一人の生活が脅かされるばかりでなく、政府が折衝を要するところでも、一個一個のものを五割で買ふことになると、計上した豫算は五分の一に減じて來る。先づ、國民生活が維持出来なくなると共に、皇軍の戦いも、國家國民が大挫に陥つてゐる状態をすべて水の泡とするのである。



貯蓄すればどうなるか？
國民が一齊に収入の増加を貯蓄したらどうなるだらうか？
一、銀行、信用組合、保険會社、大藏省預金部等の金融機関に集つた貯蓄は、すべて五十億の圓積化し、生産力増進に三十億が向けられる。
一、その結果、生活を切りつめることで一般消費の消費は抑へられ、貯蓄すること、國內の生産力は増え、軍需物資は國産に製造されてゆき、國家國民の生活の先頭に立つ皇軍將士は、十分その力を發揮出来、國內經濟も又常に安定されることになるのである。
一、そして、この貯蓄は、個人的にしても、不時に備へ、一家の繁栄、子孫の幸福の基礎となるのであるから、まさに一石二鳥の方策である。

今國の貯蓄運動は不景氣を過ぎぬ。
戦時政策は不景氣を招くやうな考へ方が世間一般に行はれてゐるが、今までは、民間に金が廻らなくて、國民の購買力が萎縮してゐるときに節約したので、物資の需要はよいと減退し、物資の生産も、物價の下落、商業界の沈滞といふ現象が起り、不景氣を招いたのである。
然し、今度の貯蓄は根本的に事情が違ひ、従來からの購買力の他に、新しく五十億の大きな購買力が國民にゆきわたるので、この購買力が全部一般消費に向けられると、平時産出の物資に不足を來し、物價の暴騰を招く。そこで、この五十億の購買力だけ貯蓄して、軍需工業方面の生産力にゆき、といふのであり、軍需工業等は寧ろ盛んになり、平和産業は元通りであるから、景氣を維持しては決して悪くはないのである。
以上の諸點をよく理解して、われわれは協力一致、統戦に在つて貯蓄の武器を執つて戦ふ、貯蓄戦の戦線へ参加せよ。

貯金模範村を訪ふ



主基村全景

村の人、又は町の人みんなが皆生甲斐に満ちた生活が出来て、お金がどしどしたまり、同時にお金のために奮せたら、その日、その日が、どんなに明るく、楽しいことぞう。

さあ、これから、『貯金村』千葉県房総半島主基村が、どうして楽しい理想郷となったか、調べてみようではありませんか。

主基村とは、

主基村は、房総半島の安房郡の最北端に位置し、安房郡から約二里の距離に在ります。

行政区域は、北小町五區に分れ、戸數四九八戸、人口二四二一人で、その内、地主十戸（六七町歩の地主が最高で自作を兼ねる人も多い）、自作一四五戸、自作兼小作一九二戸、小作三三戸その他となり、富の分布状態は、殆んど平均して居ります。

土地の分布状態は、水田三八三町歩、畑六〇町歩、牧場二〇八町歩、原野一九二町歩、宅地二一町歩、山林三三〇一町歩で、村民過去二十年間の協力は、この土地を、たぐひのない理想郷に築き上げたのです。

主基村の昔

明治の末期から、農村を襲った飢饉、天災、水利が悪い為にくる返へされた窮乏、疲弊してゆく主基村を、何とかして、住みよ、豊かた村にしたいものだとして、現村長川名氏がその職に就いてから、村治に、農業整理法、教育に大改革を加へると同時に、主基村が貯金村としての第一歩を踏み出したのでした。

活潑な生産が行はれないところに、貯金も亦生れませんが、では、貯金を生むどんな業務をしたのでせうか？

貯金はここから生れた

一、政治、経済各機關の重要な椅子には、責任者を長く止めることとし、その人々の経験と手腕に信頼して、村民はよくその経験に服するやうなりました。

一、指導的立場に立つた人達は、先達村の発展した過程を、綿密に、科学的に研究し、一定の指導方針を定めました。

一、村治の重点を、経済自治に置き、あらゆる産業の共同化を圖つて、民心を統一することにしました。

一、村民は組合員、組合員は村民の一の合言葉を探して、熱心な活動組合運動を起しました。

一、全村挙げて、有者多利貯金法を採用、耕地が比較的少ない一方、林野牧場が多い村の産業調整を、要約多角的にしました。

一、村の中央に政治、経済、教育文化の各機關、即ち役場、産業組合、學校を集中し、各々の職務を統制しました。



「消費節約より、勤儉貯蓄」を標語に、働くことによつて貯蓄する主基村には、貯金の他にその資源もふえてゆく。昭和九年九月十二日の畜牛が、今では五倍の四百六十頭となり、養蚕五千八百三十羽が、九千九百八十五羽を飼育するやうになつた。

そして、これらの家畜は毎日貯金を生み、又新たな生産資源を生んでゆくので、小学校に入學すると同時に、十歳以上の貯金通帳を村から贈られる小学生も、學校と家で生産に参加、毎日必ず貯金してゐる。



貯金村の大黒柱、現村長兼産業組合長、川名氏。

大正八年就任と同時に、各部落の政治的對立の基因となつてゐた部落林野自八町歩の統一を敢行、従来の弊風を一掃し、政治、經濟、教育の全權を一手に握り、徹底改革を加へた新農村の建設者である。

國民精神總動員の秋、勤勞の歡喜にひたたりながら、老も若きもすこやかに、明るくその日をすごす貯金村、そこには、たくましくその思想は善導され、新しい日本の農村は建設されてゆく。



収入の増加した人はもとより、そうでない人も、みんな暮つて貯蓄をする。事業の影響で、収入が増したからといって、どんちゃん騒ぎをやつてゐると、消費の増から、悪性インフレーションを起し、こんなに物價が暴騰して、わが民族の持つた聖業は、大陸にかゝやく實を結ぶ。

國民經濟生活に不安なく、生産力は増光し、

國家經濟は破綻し、國民は飢寒の苦しみにあえぐ。



〇 戦前の庵寺の一つ寶藏院、このやうなみずばらしい寺が村内に四つもあった。



〇 この村は、村民共同の機關を統制することで、みんなの經濟を合理化してゆく。庵寺を整理して、八千圓の經費で、こんなに立派な昭和三を建立した。これも、貯金から生れ、また、この結果は、形に現れぬ貯金となつてゆくのだ。

〇 主基村はかくして貯蓄した。主基村はかくして榮えつゝある。貯蓄報國運動の先頭を割つて先づ買つた愛國公債六千圓は、この村が貯へてある底力の一つの現れにすぎない。日本中の各町村が主基村に學んで、戦時下の經濟を發行の安きに置き、無敵軍の戰闘力を、更に更に補強せよ。



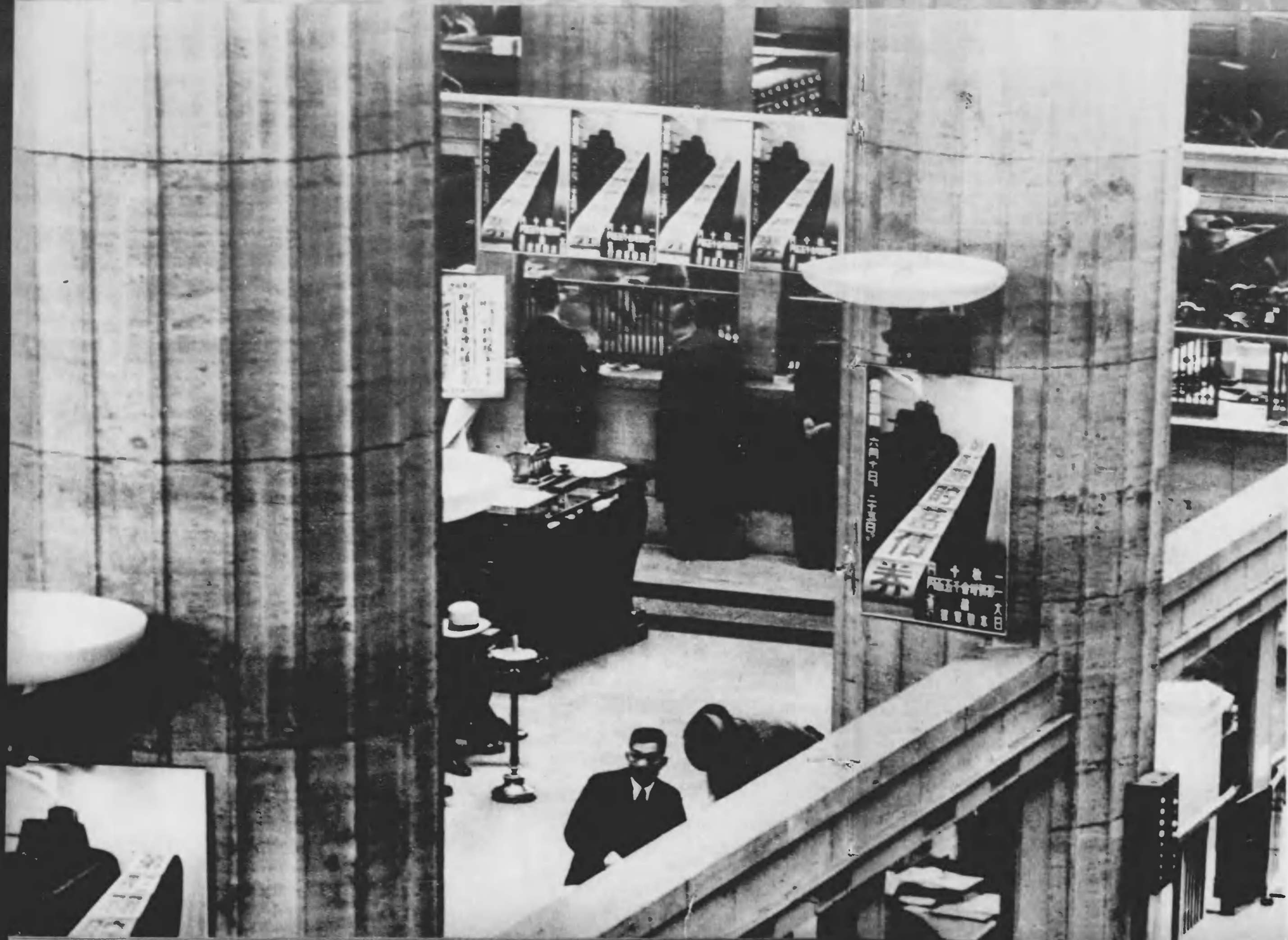
〇 産業組合を中心に、貯金で築き、貯金で榮える村には、立派な共同倉庫、共同生産所がどしどし建てられてゆく。穀貯蔵倉庫と、毎日青年團員が交替で、各戸の土性土質に合ふやう、肥料を別々に配合する共同作業。

〇 今まで、旱魃のために、根限りの労作も水の泡、迫りくる飢寒に泣いたことは、幾度あつたらうか。然し、貯金の力は、つひに貯水池を建設、四百餘町歩の田畑に、永遠の豐作を約束したのであつた。(上)

いま、旱魃の脅威を征服した畑には、二毛作の豐作物が豐饒の波をうつ。

貯蓄戦の野戦本部

日本勤業銀行



貯蓄戦の野戦本部
 日本勤業銀行

国民心を一に、力を協せて、大和民族の
 大使命を達成しよう！
 「貯蓄戦」のアドバンスは、日本晴の
 空高く上つた。
 国民皆んなの貯蓄によつて戦備を整へ、
 生産力を擴充し、物價の變動をふせぐのが
 戦後國民當然の務だ。
 さあ貯蓄の征衣で身を固めよう！



勤業銀行の一室と
 積まれた債券に誤りの
 ないよう機械のそろた
 早さで一枚一枚を檢査
 してゆく、女事務員上
 金額は少なくても、
 買ふ金は愛國の結晶だ
 手の切れるそろた債
 券を受取つた瞬間、さ
 わやかな悦びが身内を
 流れる。

待機する勤業銀行の
 窓口。
 この空間を、國民み
 んで埋め満さう。



抽籤の興味をかけて、見つめられてきた此の抽籤球も、今は貯蓄にこめる愛国心で、しつとりと重い。この番號を、日本國民の數で刻まう。

くぐるる抽籤機。愛國の誠で買った債券。抽籤の幸運か、抽出された無心の球でまざる富贖の一瞬。

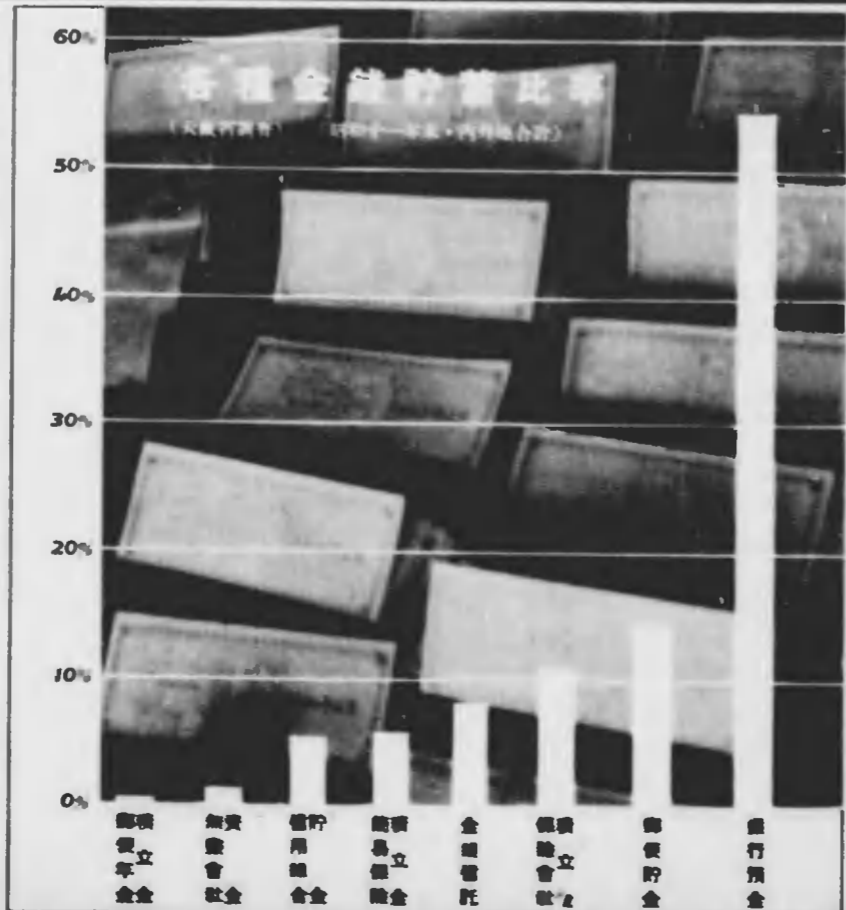


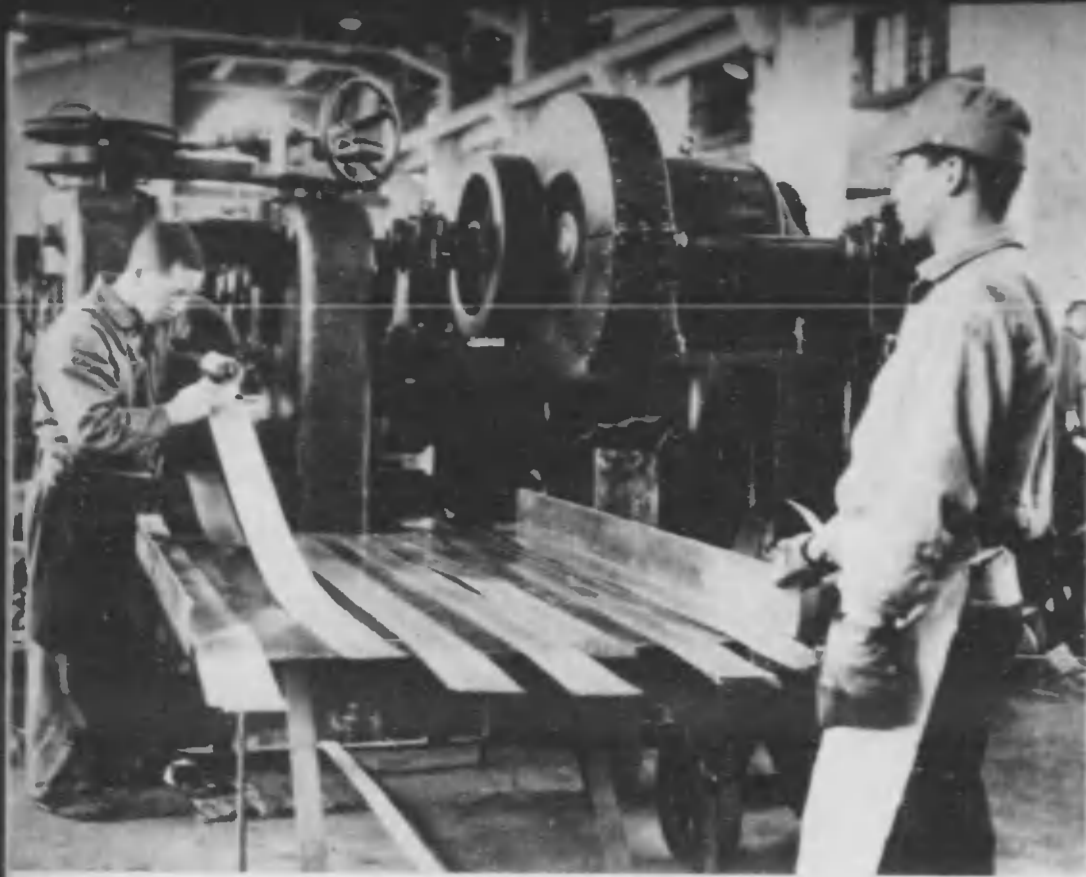
抽籤番號の彫刻室では、金屬圓球に一つ一つ番號が刻まれてゆく。この中には、一等千五百圓の割増金付償還の番號もあるのだ。

刻まれた抽籤球は、女子事務員によつて整理され、一枚の債券に一つの球が正確に用意される。(上左)

「貯蓄戦」の野戦本部、勤業銀行の内部、數百人の行員が、算盤の音も高らかに、「債券報國行進曲」を奏でてゐる。

本邦國債總額累年比較





金銀製造
非常時日本には一グラム
の金でも必要だ。こゝでは
山から採られた金塊はも
とより、民間から集まつた
時計、眼鏡の線、ネクタイビ
ン等、およそ金を含むもの
は何でも電気分解作業によ
つて純金を抽出する。
特に電気分解は電気分解によ
つて電極に析出した純金。

打抜き
金の伸べ機を打抜き機にか
けると、景気の良い音と共に
つづらな金貨がまぶしく
降り出る。

延ば
金の伸べ機は延ば機にか
けて金貨の厚さを延ばす。

ば益々國際收支の支拂超過額を多くし、
ひいては對外爲替の暴落、悪性インフ
レーションを惹き起し、わが國家經濟を破
滅させぬとも限らない。而も軍需資材は
現在のわが國には絶對に必要で、如何な
る犠牲を拂つてもとのへなければなら
ないである。

こゝに金がかうした困難の凡てを解決
する鍵として登場する。爲替の決済資金
として金の準備を確保しておくさへす
れば必要な軍需資材を心配なく輸入す
ること出来るからである。

金の準備が戰爭の準備として、また戰
争遂行のために如何に必要であるかは昔
から今日まで少しも變る所がない。恐ら
く將來と雖も變ることはない。

昔、豊田秀吉が大阪城を包囲しておいた
だしい金を貯めておいたことは、彼が
一朝有事の際に備へたものであつて、
遂に大阪城が徳川家康から攻撃をうけた
ものである。

山吹色の純金と輝く金こそは國家
經濟力の源泉であるが、殊に有事に
際しては、最も有効にして使へべき
る資源となる。

わが國がよき長期戦に耐え、軍兵の目
的を實現しうるために、勿論、既成の
軍兵の士氣と、堅忍不拔の戦後國民情
神を必要とするが、殊に戦線に豊富
る物資を供給して進軍の速度を十二分に
發揮せしめるためには、まづ大いに國內
生産力を擴充しなければならぬ。

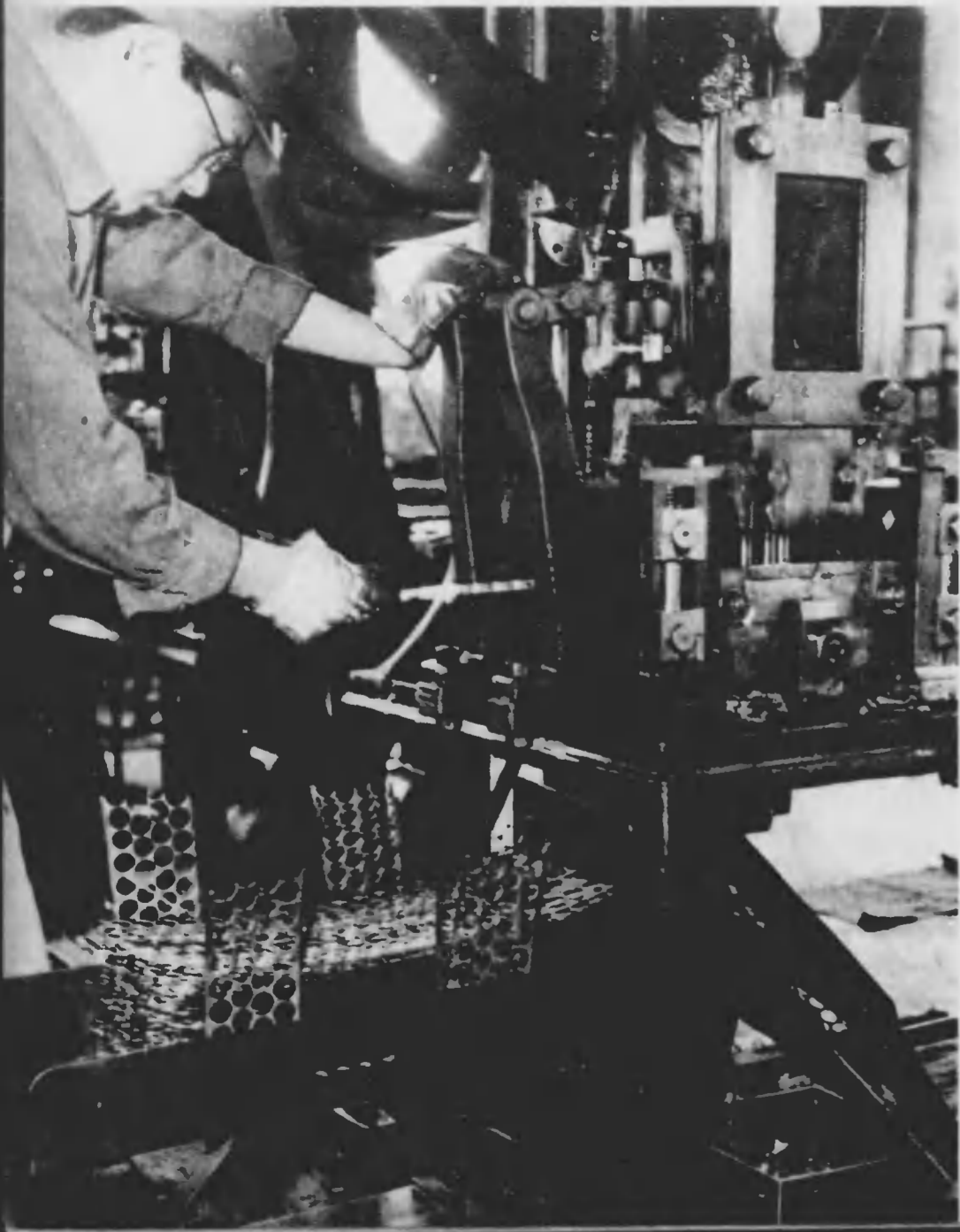
さて、生産力の擴充にはいふまでもな
く莫大な物資を必要とするが、天然資源
に乏しきわが國としては、軍需
資材にしても、生産資材にしても、外國
からの輸入にまづたなはぬものが極め
て多い現状である。ところが、わが國の
貿易は誰でも知つてゐる通り、毎年入超
につぐ入超の有様であるから軍需生産力
の擴充の必要から莫大な物資の輸入を行へ

際、容易に陥落しなかつたのは、實にこ
の準備された金銀の力によるものが多
かつた。

又、露國大戦の際ドイツは大戦前既に
ドイツ帝國銀行の正貨準備十七億マルク
の他に戰時準備金のユロス等なるに
三億マルクの金を貯めてゐた。これが大
戰初期に於ける露軍の兵隊用物資のベルギ
ー進入に大きな力となつたこと、想像さ
れる。

露國大戦も金貨との兌換停止が啓
行されたことは云ふまでもなく、金を國
家に集中する政策が堅持され、國民も亦
進んで私有的金貨や金地金を帝國銀行券
と交換し、余は國防のために金を融け、
名譽のために債を受取りたり」と刻まれ
た金の名譽と興へられて、これを戦後
國民の名譽として傳へられた。これは後
かくて、ドイツ帝國銀行の金準備が一
九一六年末には戦前の二倍を超えらる

でまるきでの貨金
語物貨金
局幣造



金塊
地下室から運び出された
金塊の山、この山吹色の輝
然たる光、どつしりとした
重みこそ、躍進日本の明日
の光であり、非常時國家經
濟のゆるぎなき礎だ。この
金塊一個の重さは十四冠か
ら十五冠、金額にして四萬
圓から五萬圓である。

熔解
金塊は電気爐で熔解し、
鑄の鑄型に流し込んで、伸
べ機とする。



選別
丸い形に生れ出た金貨は
はまづ耳(キヤ)をつけ、
水洗をすれば、黄金の色は
掩然と目を射る。尤も、一
個でも形の怪はぬものがあ
つてはならぬと、乙女た
ちの目と手が丹念にこれを
選別する。



包装
五十個づつ一包みに包装
され、いよいよ黄金の偉力
を發揮する。

検査
完全な形を備へた金貨は
も一度最後の厳密な検査を
うけて、

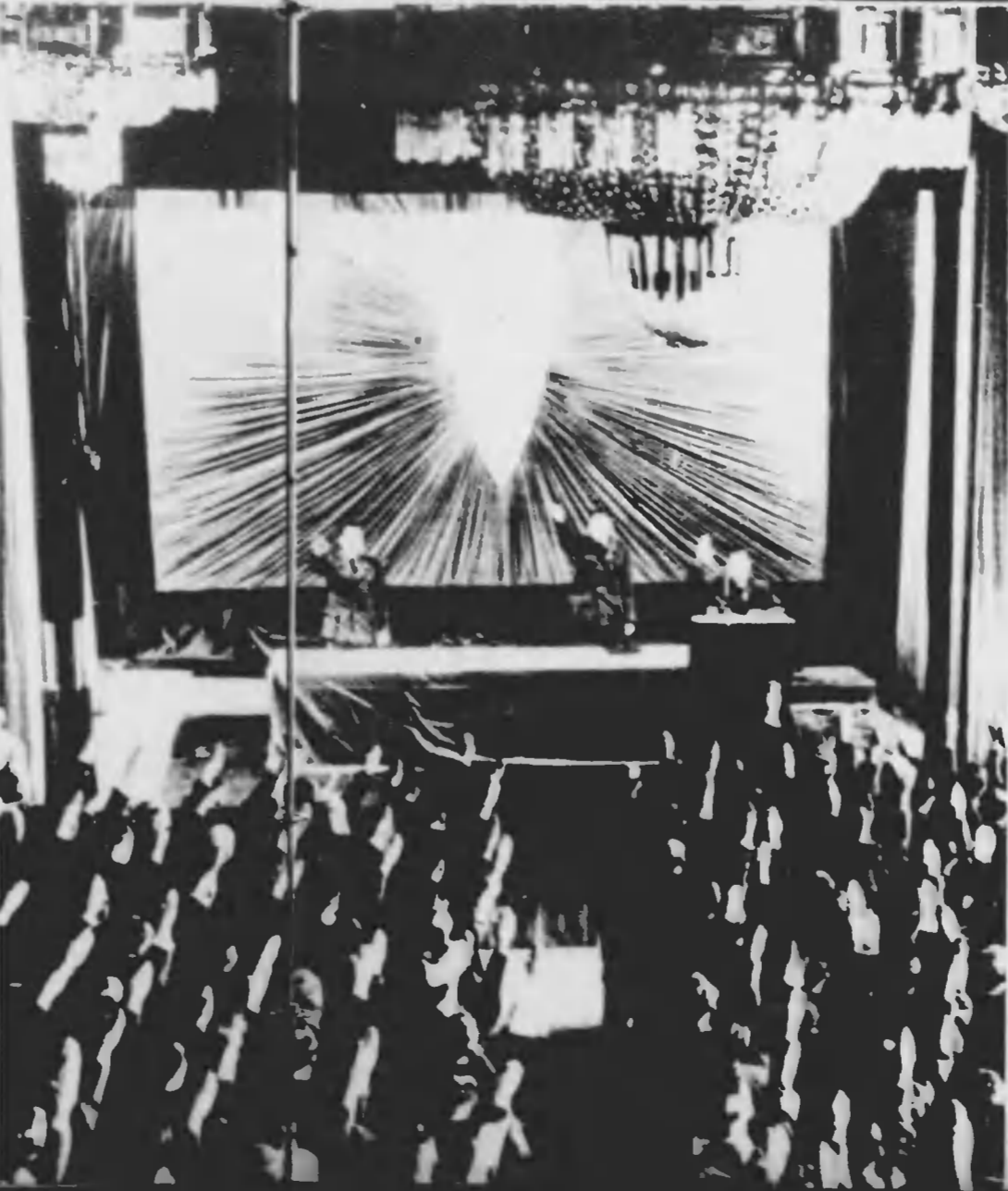
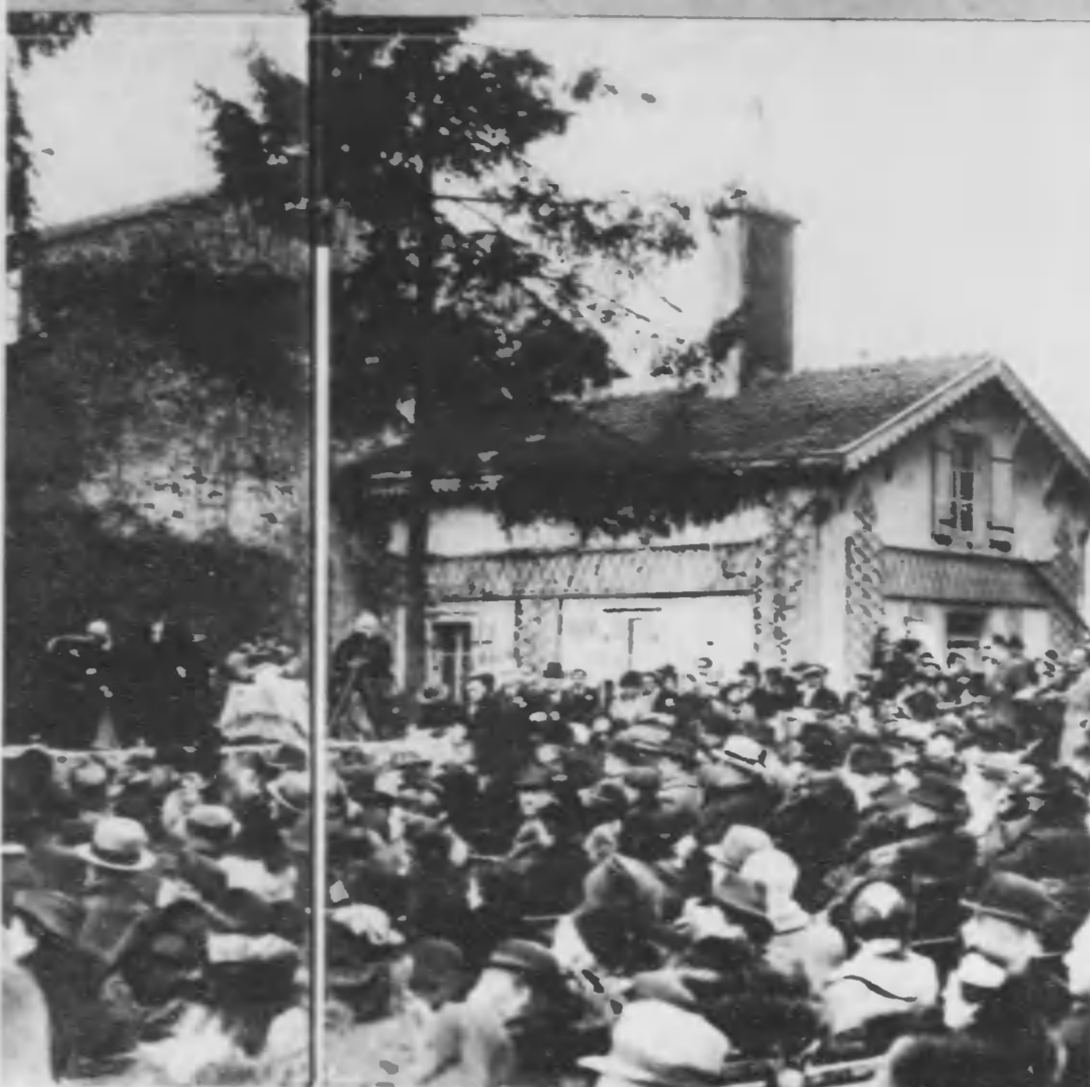


計量
十圓金貨の重さは八、三
三三瓦、二十圓金貨は一
六、六六六瓦、これにい
さ、かの違ひもあつてはな
らぬ。
自動天秤はわずかに重す
ぎるもの、軽すぎるものを
も自動的に除外する。

押印
形、量二つの検査に合格
した金貨は最後に両面に文
字模様を壓印され、こゝに
完全な金貨となる。



海彼の方



救國の聖少女ジヤンヌダルクを偲ぶ

救國の英雄少女として、フランス國民の崇敬を一身に集めるジヤンヌダルクが英軍の侵にたづねて五月八日はその五百二十六日目。パリ其他でも華やかな記念式が行はれたが、ジヤンヌの生地ドムレミエではウエルデイエ僧正、デスベレイ元帥等來場、盛大な追悼會が舉行された。

ポーランドの國民大祭

従來の反ソヴィエトの建前まですく、親佛から親獨になりつゝあるポーランドは五月三日、同國憲法制定百四十七周年記念の國民大祭をむかへた。首都ワルソーでは朝野さん々な催しがあつたがこの寫眞はこの一つ、騎兵の馬術競技大會。

小學生教育に新時代來る

劃一教育以外に特に頭腦優秀な小學生には特殊な秀才教育を施す方が、より大代の健全な文化發展に資するのではないかと、コロンビア高等師範學校の理論で、アメリカの選れた優秀生たち(約百五十人一人一人の割)は今春から全く新しい教育を實驗的に受けてゐる。即ちこの生徒たちは學校では一日二時間だけ普通の正規な授業を受けるが、他の時間は全く自由に氣の向くまゝ、習得探求を許す。例へば交通の照明、日光浴といつた様なもので、寫眞は秀才小學生のグループがインディアンの小屋モデルを觀察、原始的な住居理論を學んでゐるところ。

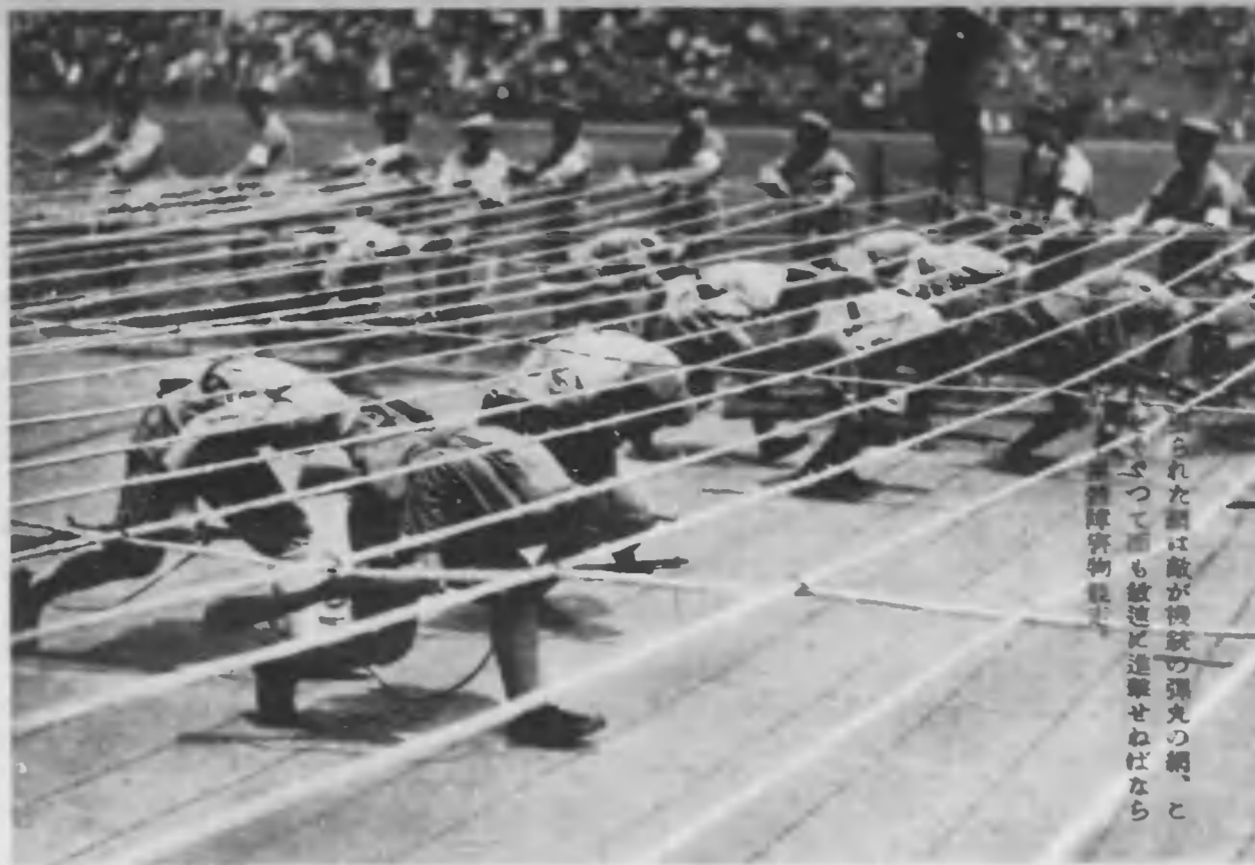


アメリカ空軍の大演習

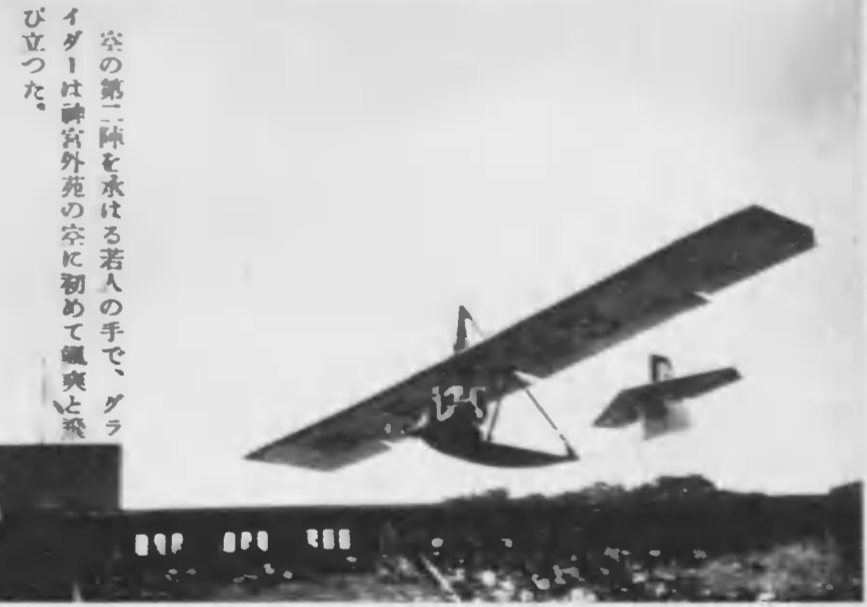
五月上旬北部大西洋一帯にわたり大規模な空軍演習を展開した。百餘機、百餘マイルの飛行、二十萬ガロンのガソリンを消費したといふ。寫眞はワイルドベネット、ワイルド基地から飛び出し、ニューヨーク上空で敵艦隊に喰ひ下つてゆく米空軍自衛隊のボーイング戦闘機。

自治を叫ぶチエツコの少數ドイツ人チエツコソバの火災庫のドイツ少數民族問題を論じる緊張は、無意味な暗闘を低減させてゐる。チエツコソバ、ドイツ黨首コンラッド・ヘンライン氏はカールスバードに於ける最近の黨大會でステーション・ドイツ人の自治を要求、この實現こそチエツコの平和を維持する唯一の道であると演説公表は滿場一致で支持を表明した。(中央がヘンライン氏)

本日の練習は見え方の練習



国防スポーツ大会... 事案下の国防第一師を、承はる免役設備の健児が日頃の訓練...



空の第二陣を承はる若人の手で、グライダーは神宮外苑の空に初めて飛ぶと飛び立った。



「進め！」標旗を掲いで突撃！ガスマスクを着用...



...の自転車部隊が、自を有し、新鋭の自転車部隊の練習を執り行...

愛の國の愛児は Patrogen 国産最優良の世界的母乳代用品. Includes image of baby and product can.

寫眞週報 週刊 寫眞週報

Advertisement for Shinsen magazine with details on subscriptions and prizes. Includes an image of a person's face.

Table with subscription information for 'Shinsen' magazine, including prices and distribution points.



マツダ真空管

新マツダランプ



MATSUDA
UY-56

東京週報
昭和十三年三月十日 第三版 郵政省認可
昭和十三年六月十五日發行 (毎週一冊 水曜日發行) 第十八號

(本書の大きさは横切規格A4・一週報二倍)